

# 令和7年3月12日

全員協議会 会議録 協議内容

## ◇会議録

- 1 日 時 令和7年3月12日(水)  
開 会 14時45分 閉 会 15時32分
- 2 場 所 役場3階議場
- 3 出席者 議長 寺林俊幸  
1 畠山美和 2 塚本逸彦 3 山端隆治  
4 内山美穂子 5 小田新紀 6 長谷陽子  
7 酒井はやみ 8 荒 貴賀 9 野原恵子  
10 石川康弘 11 岡本眞利子 12 小島智恵  
13 藤谷謹至 14 田口廣之 16 谷口和弥  
17 藤原 孟 18 中橋友子  
(以上18名)
- 4 傍聴者 高橋 勉 道西義彦 岡田正著
- 5 事務局 局長 合田利信 課長 佐藤勝博 係長 菅原美栄子
- 6 協議事項 (1) 議員定数の見直しについて
- 7 協議内容 別紙

議長 寺林 俊幸

## ◇協議内容

(開会 14:45)

○議長(寺林俊幸) ただ今から、全員協議会を開催いたします。

議案の1、協議事項に入らせていただきます。

(1)議員定数の見直しについてを議題といたします。

①各議員の意見・考え方についてであります。3月4日開催いたしました全員協議会では、各議員から議員の定数について、増員、現状維持および削減などのご意見をいただきました。その前段では、基本的な議員定数のあり方についてのご意見を伺ったところでございます。本日は、当初からお示ししておりましたが、引き続き議員定数に関して、各議員が適正と考える議員定数の具体的な数字をお聞きしたいと思いますけれども、その後、これまで発言をされていない議員のみなさんのご意見を伺って、発言をされたい方のご意見を伺いたいと考えております。そのような進め方でよろしいでしょうか。

野原議員。

○9番(野原恵子) 前回発言した議員の場合は、発言できないと受け取ったのですが、それはどう考えたらいいでしょうか。

○議長(寺林俊幸) 内容について同じご意見ということになるでしょうか。違うお考えがあるのであれば、伺いますけれども、進め方としてそのような進め方でよろしいでしょうか。

石川議員。

○10番(石川康弘) まず全員の具体的な人数についてお聞きするということですか。そこから議論に入っていくということですか。

○議長(寺林俊幸) はい、そうです。前回の全員協議会の中で、冒頭に議員定数の基本的なあり方についてのお考えを最初にお伺いしました。各議員から議員定数のあり方についてのご意見をいただいたところです。妥当な議員の定数は何人であろうかということをお聞きしたいということをお示ししていたと思います。それをこれからお伺いしたのちに、さらにご意見がある場合はお伺いしたいということですがよろしいでしょうか。

中橋議員。

○18番(中橋友子) 前は、議長が一人ひとり指名されましたから、発言をされていない議員はいないと思うのですよね。一つその確認なのですけれども。

○議長(寺林俊幸) 私は、ご意見があった場合とお示したのは、前回の冒頭、お聞きしました議員定数の考え方についてのご意見をお伺いしましたけれども、そのことについてみなさんのご意見をこれまで聞いてきて、さらに本日、適正な人数は何人だというご意見を聞いたのち、ご意見があればお聞きしたいということです。

中橋議員。

○18番(中橋友子) 前回、みなさんのご意見を伺って、さらに期間がありましたから考えさせていただいて臨んでいるわけなのけれども、その間いきなり何人ということではないのですけれども、さらにお伝えしたいという思いも持って、今日臨んだのですけれども、そういった発言については控えたほうがいいですか。後段に言われたさらにとというのが、全員協議会の進め方としては、最初にそれがあって、それも聞いた上で、自分はこうだよというのが流れかなと思って、臨んだのですけれどもそれは違いますか。

○議長（寺林俊幸） 本日は、前回の全員協議会の引き続きということで今日の日程を決めさせていただいたところでありますけれども、前回の引き続きということで冒頭にそれぞれの議員定数の基本的な考え方はございませぬかということで、ご意見をいただいて、それぞれ一人ひとりの考え方を伺って終えているわけですが、当然それぞれの議員の皆さんのお考えをいただいた中で、考えを述べたいということはあるけれども、本日の進め方として、まずはそれぞれの考えておられる適正と考える議員の数を聞いたのち、ご意見があればと思っておりますけれども、前回もそういう形で冒頭ご意見ありませんかということで、進めさせていただきました。

野原議員。

○9番（野原恵子） 前回と同じような進め方ということであれば、先に定数は何人か問うのではなくて、まだ議論を深めたほうがいいのではないかと議員も、終わった後もそういう声が聞こえてくるものですから、であれば、きちんと会議の中でそれぞれの考え方を述べていただくというのが、議論を深めていくことになるのではないかと思っているのです。ですから、意見がある方は、前段に意見を出していただいて、定数を何人にするのかというのは、ここで決めていいのかどうかというのは、考えているところですが、まずはまだ発言が足りなかったと思っている人もいるのであれば、もっと意見を出してもらわないかと思うものから、その点はいかがでしょう。

○議長（寺林俊幸） 3月4日でありますけれども、全員協議会の冒頭に、お話させていただきました。この議員定数のあり方、報酬、政務活動費については、それぞれの会派の中で基本条例、24項目の改革の検証していただきました。その中で議員定数、報酬、政務活動費については重点的に検討しなければならないと。しからば、それをどこで協議をさせていただいたらよろしいかという中で、これまで議会運営委員会で、検討を進めてきた中身であります。やはり、今も議会運営委員会で検討を進めていただいている中で、多様に個々に意見を聞く場が必要であろうということで、このような全員協議会を開催させていただいております。あくまで協議の場は議会運営委員会であって、全員協議会がそういう場ではないということまでは申し上げませんが、前回もご意見伺う前にお伝えしてあるかと思っておりますけれども、ここで聞くだけの場とはしたくないと、ある程度踏み込んだ協議も必要と考えると、ただここで深く協議をすることは避けたいということはお伝えしていると思っております。お聞きはして、それぞれお考えあるかと思っておりますけれども、それぞれの議員のみなさんの考え方に対して、正しい、間違っているというような進め方はしたくないと考えております。それでは、みなさんにお諮りいたしますけれども、具体的な適正と考えられる議員定数をお聞きする前に、改めて、それぞれの考えがある方から、ご意見を伺うというような進め方の提案がありましたけれども、いかがでしょうか。先に、ご意見がある方から伺って、進めるということによろしいでしょうか。

（よろしいの声あり）

○議長（寺林俊幸） では、そのように進めさせていただきます。先ほど申しましたけれども、各議員から前回の全員協議会で一人ひとりのお考えをお伺いしたわけですが、議員定数のあり方についての基本的な考えとして、ご意見のある方は挙手をお願いいたします。

石川議員。

○10番（石川康弘） ただ今、いきなり定数の人数のことが出ましたので、非常にショックを受けております。前回の進め方の中で、全員の本当の思いが語りつくされたかというところではないと思うのですよね。私自身も持って帰ってから、いろんな人に話を聞いたり、いろんな資料を見て考えました。その中で、定数については、ほかの議員報酬とか議会の活性化とかいろんなことが関係していくと思うのですよね。そういったことからもっと深掘りして、議員同士が議論をしていかないと解決しない問題かなと思っています。先般、事務局から全国の、また近隣の資料が配布されましたけれども、私はそういった規模や近隣町村を参考にすることも、ある意味では参考になりますけれども、やはり私たちは幕別町に合った常任委員会のあり方、議員の例えば定年制だとか男女平等参画におけるクオータ制だとか、議会の活動日数であるとかそういったことを含めて、話し合いをしていかないと私はこの定数について決めることは非常に難しいと思うのですよね。あまりにも議論の時間が足りないと思うのですよね。私は議員定数削減の話をしましたけれども、チェック機能が低下するという問題もあるかもしれませんけれども、議員一人ひとりの知見を高めたり、能力を向上させたりすることによってそれは解決されていくものだと感じております。

○議長（寺林俊幸） ほかにご意見のある方はいらっしゃいませんか。

岡本議員。

○11番（岡本眞利子） 議員定数につきましても、前回から少々時間がありましたので、真剣に考えながら今日挑んだのですけれども、これまで会派間でも議論してきました。議運の中でも議論をし、そして議員定数について他町村の資料なども確認をし、さらには先般の全員協議会で一人ひとりの意見を踏まえながら、難しい場面に来ていると実感しています。これは避けて通れないところまで来ているのだなと思っています。そこで、私は議員の原点に立ち返って、議員は住民の代表であり、住民の付託を受けて議員の仕事をしていると思っています。議員は誰のために、何のためにと考えると、全て住民、町民の方のためだと思っています。人口が減少してくるということは、自ずと議員も減ってくるという方向性に行くかと思えます。今回の選挙においても、幕別町議会始まって以来の無投票という、前代未聞の結果になりましたので、この先のことを考えるととても危惧するところでもあります。したがって、議員が少なくなったとしても、やり方を変えながら、工夫をすることによって、活発な議論を交わすことができるのではないかと。管内でももっと少ない定数でも議会活動は問題なく出来ているのではないかと思いますので、削減ということはやむを得ないと感じています。

○議長（寺林俊幸） ほかに、お考えはございませんか。

藤谷議員。

○13番（藤谷謹至） 今、岡本議員から会派の中で揉んだという話を聞いたのですけれども、この議員定数あるいは議員報酬の改正を進めていく上で、議論の場が議会運営委員会だと。今度4回目の会議を行うと。議運に出ていない方々はその議運での議論がどのように進んでいて、これからどのようなタイムスケジュールでこの議員定数、議員報酬の議論を進めていくかというのが、ちょっとわからない状態。もう少し、議運から例えばどのようなことで話し合っしてほしいということを会派に落として、あるいは会派に入っていない方もおられるので、一回そこに落として、どのようなことを議論してほしいかを整理して、進めていったほうがわかりやすいと思うのですけれども。

○議長（寺林俊幸） まず、お考えのある方のご意見をお聞きして、これまでの幕別町議

会として、基本条例の検証から始まって、検討課題項目を挙げていただきながら、各会派での検討結果を踏まえて、ここまで来ていますけれども、それについて議会運営委員会等でお話したこともお話しさせていただこうと思います。

ほかにございせんか。

中橋議員。

○18番（中橋友子） 前回は発言はさせていただきましたけれども、その続きを重複しないでお話をさせていただきたいと思うのですけれども、一番今、真剣に考えていくのは、議員としての役割を果たしていく上で、はたして何人の定数であれば一番いいのか。現状を捉えて、判断していくことが求められていると思っています。この議員定数の問題は、繰り返し議論されてきました。私は一つだけ、自分の思いとして、お伝えして判断の材料にさせていただきたいというのがあって、これまで幕別町の議会は合併も入れて、数度にわたって、定数を削減してきたということで、最初は26人からスタートして、それが22人になり、合併で多くなりましたが、また20人になり、ここまできました。その都度、議会の予算というのが幕別町全体の予算の中で、どんな位置づけだったか調べてみたのです。そうしましたら、議会が始まった昭和22年からスタートしているのですけれども、ずっと幕別町全体の財政に占める議会費というのが1パーセントで推移していました。多かったのは、1975年で1.4パーセントということでありました。それが今日ずっと推移してきた中で、先日、令和7年度の議会費の予算ということで、原案が出されましたけれども、それを見ますと、0.5パーセントを切っておりました。つまり議会費というのは、この長い経年で見ると、1パーセントを超えていたものが、多いときの3分の1の予算で、みんなが頑張ってきているということがあります。幕別町全体の財政状況を見ながら、さらに議会としての使ってきたお金もどういう経過だったのかということも、つまりそれだけずっと減らしてきたわけですから、そういう流れの中でできていることもありまして、よく民主主義のコストとも言われますけれども、そういう流れであったことをみなさんにも知っていただきたいと思って発言させていただきました。

○議長（寺林俊幸） これまで、議会運営委員会ですさまざまな課題のある中、議運のみなさまには協議をしていただいたわけですが、その間資料も必要であろうということで、資料も提供させていただいております。その内容については、基本条例の定数のあり方にある中で、明記されている人口規模、財政規模さらには他町村との比較等を踏まえた中で、多くの町民のみなさんのご意見を賜れるような体制をとっていかなければならないということが書かれている中で、先日の全員協議会でもお示しした資料は、その内容と同じ資料であります。それを踏まえて、やはりうちの町は十勝管内で唯一合併をした町であるということから、合併した同規模の町はどういうような歩み方をしているのだという資料も出させていただきました。それを踏まえて、議会運営委員会で検討させていただきたいという思いであったのですけれども、なかなか議論が進まない。冒頭お話しさせていただきましたけれども、各会派において基本条例、改革24項目を検証いただいたのは昨年であります。半年以上が経っております。そういう状況であれば、各議員から直接ご意見を伺って、それを基に議会運営委員会でさらに議論を重ねていただければという思いで、この全員協議会を開いているわけですが、議会運営委員会のメンバーというのは私が申し上げるまでもなく、各会派の代表のみなさん、さらには常任委員会の委員長が入っていただいて、進めていただいている議会運営委員会であり

ますので、その内容については会派のみなさんと共有いただくことは必要であろうと思っておりますけれども、先ほど藤谷議員からも発言がありました。この議運で進めてきた内容を各議員に伝えないのだというようなご意見だったかと思えます。本来であれば先ほど申しましたとおり、代表の方が出席した会議の内容については、同じ会派のみなさんにはお伝えいただいているものと思っておりますけれども、そういう状況ではないのかなと考えます。ここで、先ほど石川議員からも適正な議員の数をここで聞くことは、いかがなものかというご意見もありましたけれども、前回の全員協議会の前にも進め方として、こういう流れでやらせていただきたいとお伝えはしてあったと思えます。冒頭お考えをお伺いした上で、適正な議員定数は何人かというようなことをお聞きするというお約束をしていたかと思えますけれども。

谷口議員。

○16番（谷口和弥） 前回の全員協議会では、最初一人ひとりの意見を聞く前に考え方をということの訴えがあって、そこで何人かの発言があったのだけど、その趣旨に沿って発言したのは、私一人ではなかったかと思えます。それは、最初から私は反対の立場だ、賛成の立場だ、それに対しての意見を陳述したのであって、どういう考え方で次、どう考えていくかということに至らなかった、そういう印象を持ちました。私の率直な感想です。私の考えは前回述べたように、議会基本条例第18条に沿う、これをベースに考えていかなければならない。だってそう決めたのですから。いろんな経過がある中で、最高規範を決めたのだから、それに沿って決めなければならないというのは、当然にこれしかないのだろうと。それを無視して、ほかに何か違うものを並べて、対等平等にするというのは、これまでの物事の決め方としては存在しません。まずそれが一つ目で、今日、こういう議論がされているわけであります。議会運営委員会の委員や議会運営委員会の委員長、副議長から先に意見が述べられました。ちょっとそういう立場の人たちからそういう意見が出るようでは、この進め方では塩梅が悪いのだろうと思っているのです。全員協議会あるいは議会運営委員会で、この来年の3月までに定数をどうしようという結論を出すのは非常な困難ではないかという印象を持ちました。方法としては、私が改めて、藤谷議員の話もあったけれども、全員がきちっと決定を知ることになりやすいように、特別委員会を設置して、この議員定数の適正化について議論することを、だから今、話が戻ってきてしまっているものだから、それであればそういう組織にして、それが全員であるのか、それとも議長が指名した全員ではないのか、その辺のこともありますけれども、そういうやり方をしていけないと、これから先いろんな困難があって、なかなか進行していかないのではないかという印象を持っているところです。繰り返しになりますけれども、特別委員会を設置して、そこで議論することのほうがこれから先いいのではないかという印象を持って、今日は話を聞いておりました。

○議長（寺林俊幸） ほかにお考えのある方は。

（なしの声あり）

○議長（寺林俊幸） さまざまなご意見を伺いましたけれども、この協議の場ということで、どこで協議をしていきたいと思いますかという中で、議会運営委員会で諮られたときに、これは議会運営委員会で進めていってよろしいという判断をいただいて、そこで協議をいただいています。これまでも何回となく、協議をいただいております。今、谷口議員から特別委員会というような話もございましたけれども、やはりここまで議会運営委員会で協議をいただいた以上は、本日の、また3月4日の全員協議会のみなさまのお

考えを基に、さらにその場で議論を進めていただきたいと思います。スケジュールについても、今年の年明けには明確なスケジュールを出させていただいて、その都度議論が深まった中で、町民の皆さんにお伺いする機会を設けたり、アンケートをしていくなり、お示しをしていたと思いますけれども、これをまた新たな特別委員会ということになりますと、またゼロからのスタートになるかと思えます。やはりこの全員協議会を踏まえて、それを持って私は、議会運営委員会の中で協議をいただきたいと思います。そのような進め方をさせていただきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。そこには、今会派に入っておられない方もいらっしゃいますので、さまざまなご意見を伺う場面を作っていくたいと思えますけれども、また議会運営委員会の中での一つのあり方として、オブザーバーという立場を設けて、その場でご意見をいただけることもありますので、その点についても、お考えをいただければなと思えますけれども、今日の進め方として、ご意見をいただきながら、予定としてはこの幕別町議会の適正な議員の数について、お伺いするという予定でありますけれども、ここで改めて、考えておられる数をお聞きしてそれを議会運営委員会に持ち帰るか、それとも今ここで、まずやはり具体的な数を持って、それを議運でとなると、なかなか進め方として難しいものもあるのかなという気持ちもありませんけれども。

中橋議員。

○18番（中橋友子） 進め方につきましては、議長がお話されたとおりの前々回の議会運営委員会で、この定数問題については、議会運営委員会で議論することと、その時に都度必要があれば全員協議会を開くと明記されておりまして、それを議運のみなさんで確認して今日の場に至っているということでもありますから、進め方の流れとしては、確認されたとおりに進んでいくことが、これまでの決め事からいって、大事ではないかと私は思います。

○議長（寺林俊幸） それでは、3月4日の全員協議会を開催する以前から、みなさんにはこの全員協議会の中で、各議員からその定数のあり方の考え方、さらには適正な議員の数についてお伺いしたいとお伝えしていたと思っております。本日、みなさんにお集まりいただいて、今後に向けて議員定数の考え方をさまざま伺いました。それを踏まえながら、ここでみなさんの考えておられる幕別町議会の議員定数の適正な数について、お伺いして、それも踏まえて、議会運営委員会でさらに議論を深めていただきたいと思いますので、これから一人ひとりの適正と考えられる議員定数についてお伺いしたいと思います。

それでは、まず畠山議員。

○1番（畠山美和） 先日いただいた資料の中で、幕別町と類似している19団体を基に議員数を算出しているものがあり、その算出によると14人となっていました。14人となると今の19人から5人減るという考えになってしまうので、いきなり5人というのはちょっと考えづらいことなのかなと思いつつながら、今、選挙離れや議員のなり手不足などもあって、適正と思う人数を決めるのは難しいことではありますが、自分としては、削減によって、利点もあれば、懸念される部分もあるかと思いつつながら、自分の中では、先日は削減に賛成だったので、16人くらいが妥当かなと考えています。

○議長（寺林俊幸） 塚本議員。

○2番（塚本逸彦） 私もこういった資料を鑑みまして、現在も18人で動いていることも考えて16人という数字を出しました。

- 議長（寺林俊幸） 山端議員。
- 3番（山端隆治） 私も削減派なのですが、何年先という考え方をしないで、ある程度目の届く範囲ということで1人削減、18人でいきたいと思います。
- 議長（寺林俊幸） 内山議員。
- 4番（内山美穂子） 前回、削減の方向でという考えを示させていただいたのですけれども、具体的な人数となりますと2019年に前回の条例改正で、定数を決める時に各委員会が活発に意見を言えるように6人ずつプラス議長で19人と決めたのですけれども、ここで、2人か3人とは思っているのですけれども、それにはただ人数だけではなくて、常任委員会の再編の可能性だとかいろんな減ることによって、マイナス面があって、それをどういう形で補っていくか、そうなる今回話とは別になってくるとは思うのですけれども、議会モニターとかサポーターとか併せて考えていきたいなど、とりあえず2人か3人と思っています。
- 議長（寺林俊幸） 小田議員。
- 5番（小田新紀） 私も前回お話したとおり、数字で言えば、現状維持以上と。最低限、現状維持と考えております。適正という言葉が何を当てはめるのかということになるかと思いますが、何度も話題に出ているとおり、当然、議会基本条例の条文を基本として考えていかなければならないと思います。数字だけにとられるような根拠であってもいけないと思うので、単純な数字比較だけで結論を出すべきではないと思っています。そういった中で、議会活性化ということ、条文書いてあるとおりですけれども、さまざまな方々の意見をいただける、そういった体制、議会としての役割をしっかりと果たすという観点から行けば、そういった議論で前回19人という数字を出したという経緯もありますので、現段階では大事にしたいと思っています。
- 議長（寺林俊幸） 長谷議員。
- 6番（長谷陽子） 2年間振り返ったときに、議会のあり方にちょっと疑問を呈します。議会の活性化と言いながら、自分たちだけ活性化しているのではないかと。逆に職員たちに元気がない。職員たちに元気がないということは幕別町全体も元気がなくなるのですよね。議会だけが活性化しても、私がこの2年間を見てきてですけれども、15人くらいで結構だと思います。そして、1人、2人と減らしていかないで、15人で10年くらいそのまま行くべきだと思います。私的には、1人ずつ減らしていかないでいいかなと思っています。前回も言いましたが、若い人を取り込んでいくには、平日にはまず無理で、まず2年間やってきて、そういう人たちも取り込もうと思ったら、土日とか、そのときには係長以下が時間外っていうけれども、その辺は議会が配慮して、部課長以上が対応しなさいという申し合わせで進めたらどうかなと思っています。
- 議長（寺林俊幸） 酒井議員。
- 7番（酒井はやみ） たくさんの多様な意見が反映されるようにということで、現状維持を考えています。
- 議長（寺林俊幸） 荒議員。
- 8番（荒 貴賀） 私も前回と同じ考えなので、現状維持を推奨します。
- 議長（寺林俊幸） 野原議員。
- 9番（野原恵子） 前回発言しておりますけれども、違う意見もまだ持っていますので一言発言したいと思います。議員の仕事としては、国からの委任事務ですとか増えてきております。人口が減っているからといって、議員の仕事が減る、職員の仕事が減ると

いうものではないと私は思います。議員の仕事はやはりしっかり調査して、議会に臨んでチェックするという役割は、非常に大きいものがありまして、これからの町の事務ですとか、チェックしていくには議員の数は一定程度ないと、チェック機能を果たせないのではないかと、そういう立場からも現状の19人と考えております。

○議長（寺林俊幸） 石川議員。

○10番（石川康弘） 私は、まだ議論が深まっていないという判断の下、定数については明言いたしません。

○議長（寺林俊幸） 岡本議員。

○11番（岡本眞利子） 私は、現在1名欠員ということでありまして。実質18名ということでありまして、そこから2名引いたとしても16名と考えております。

○議長（寺林俊幸） 小島議員。

○12番（小島智恵） 前回、削減ということで意見を述べさせていただきました。理由も述べました。その理由から14人もしくは16人が妥当ではないかと思いました。

○議長（寺林俊幸） 藤谷議員。

○13番（藤谷謹至） 前回は、〇×ははっきりさせるような発言はしなかったのですけれども、現状維持ということで考えています。

○議長（寺林俊幸） 田口議員。

○14番（田口廣之） 前回と同じ現状維持でいいと思います。

○議長（寺林俊幸） 谷口議員。

○16番（谷口和弥） 私は3議席削減するのが適当だと考えております。

○議長（寺林俊幸） 藤原議員。

○17番（藤原孟） 私は、議員になってからずっと削減派ということでやってきました。ですが、今回この問題を若い者と話をして、一夜にして私は議員増員派に転向しました。それはやはり、今までの選挙では地盤、看板、推薦母体がなければなかなか議員になれない。今の若い人たちを次の世代のリーダーに育てるには、ハードルを下げ、門戸を広げなければ簡単には議員になってもらえない。そういうことから、私は一夜にして、議員増員派に変わりました。説明これ以上すると長くなりますけれども、私は何年か前、議員定数の法定数は26人という数字が出ています。そこからずっと削減していたのですけれども、今回一度立ち止まって、26人という数字からどのくらいがこの町に必要なのかじっくり議論を進めていく。なおかつ、三つの常任委員会に最低でも7人、普通であれば8人くらいいて、議論をする。それが委員会中心主義の幕別町議会になると思います。

○議長（寺林俊幸） 中橋議員。

○18番（中橋友子） 結論から申し上げますと、最低現状維持。そして、法定数を視野に入れると考えています。26人で出発した最初の立候補者は46人いたとなっております。つまりたくさんの方に立候補していただく。今の時点で、多様性を反映するのであれば、大事な視点だと思います。

○議長（寺林俊幸） それぞれ各議員からさまざまなお考え、ご意見さらには適正と考える議員数をお伝えいただきました。本日の協議会でいただいたご意見を踏まえて、今後議会運営委員会で検討を進めていきたいと考えておりますけれども、本日もありましたとおり、重点課題として定数のさることながら、報酬また政務活動費というほかの項目もございまして。今後、議会運営委員会で協議を進める中で、さらに改めてご意見を伺う

機会を設けなければならないという判断に至ったときには、全員協議会を開催させていただきながら、ご意見を伺いたいと考えております。本日の全員協議会の中で、メインとなる議員定数に対しての各議員の意見、考え方について伺いをいたしました。本日は、この件については、この程度といたしたいと思っておりますけれども。

谷口議員。

○16番（谷口和弥） 一言、希望をお話させていただきたいと思っております。特別委員会にはしないと、従来の方針どおりやるということであれば、それぞれでよろしいです。ただ発言の中で気になるのは、町民の意見をこれから聞きながらということであったけれども、私は、今ここで述べたことが町民からの意見を聞いて述べたことだと思えば、そうでもない印象を受けてしまうようなことがありました。やはりこの会議はちゃんと進めていかなければなりません。ちゃんと事前に準備をして、この会議に臨めるようにしていただけると、よりそれが叶うのかなという印象を持っています。できればそのようにお願いします。

○議長（寺林俊幸） スケジュールとして、前にもお示ししておりますとおり、到達地点は来年の3月には結論を見いだしたいということをお伝えしながら、議会運営委員会の中である程度の方向性というか、議論がある程度進んだ中で、町民のみなさんと形はさまざまあるかと思っておりますが、意見交換等を進めていかなければならないと考えております。当初の目的としては、この結論を見いだすのは本年12月ということで、お示ししてございましたけれども今後の議論の進め方で、スケジュールどおりにいくかどうかということも考えておりますけれども、最終的にはやはり結論を見たその後、改選までは1年以上の猶予が必要であろうと考えております。それは、我々議会としての責任がそこに発生するだろうと考えております。今後の議会運営委員会で、谷口議員からも提案として特別委員会というような提案もありましたけれども、これまで進めている議会運営委員会で、進めていただきながら、そこで特別委員会が必要だという判断があれば、それはそこに向かって進むべきであろうと思っておりますし、ただ今の段階では、議会運営委員会中心となって、行われている状況でありますので、そこで協議をしていただきたいと考えております。

ほかにないようでしたら、これで議員定数についてはこの程度にいたしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

（よろしいの声あり）

○議長（寺林俊幸） 次に、議案の(2)のその他であります。みなさんから何かございませんか。

（なしの声あり）

○議長（寺林俊幸） ないようでしたら、以上で本日の案件は終了いたしました。

これをもって、本日の全員協議会を閉会いたします。